



北海道大学 総長  
山口 佳三

北海道大学の起源は、1876年、日本で最初に学士の学位を授与する近代的大学として設立された札幌農学校に遡り、その後、帝国大学、新制国立大学の時代を経て、現在の国立大学法人北海道大学 に至ります。

この140年にわたる長い歴史の中、本学は、「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」という4つの基本理念を建学の精神として培い、教育研究の場で実践してきました。

2014年、本学は文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」タイプAに、13校の1校として採択されました。本事業は、世界レベルの教育研究を行うトップ大学で、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することを目的としています。

本事業において、本学は「世界に開かれ、世界と協働する大学」を目指し、徹底的に変革し、時代の課題を引き受け、新しい道を切り拓く人材を育成する構想を掲げており、これは、「世界の課題解決に貢献する北海道大学へ」を目標とする「北海道大学近未来戦略150」の根幹をなす取り組みでもあります。

2015年には、学部生向けの「新渡戸カレッジ」を発展させた大学院生向けの「新渡戸スクール」を開校、高度な専門性のみならず、専門性を活かすプラス $\alpha$ の力を伸ばす教育を実施し、また、異分野連携及び海外のトップ大学との連携による、新たな国際大学院を2017年に開設するべく準備を推し進める等、一つ一つの計画を着実に積み重ね、構想の実現を目指しているところです。

このような改革に不断に取り組むにあたっては、財務の健全性を確保すると同時に、その透明性を高め、皆様への説明責任を果たすことが重要です。本学では、毎年、財務諸表を公表するとともに、本学の財務状況及び運営状況についてよりわかりやすく、ご理解いただくため、本報告書を作成しております。

本報告書が本学の財務状況への理解を深める一助となれば幸いです。